



▶▶▶ デイベート演習 ～討論力をつけよう！～

人間環境講座（1年生理数科）

後期から1年生理数科では、金曜日の6，7限に人間環境という授業が行われています。人間と環境、健康福祉の関わりについて総合的に学習することにより、生命観、倫理観を身に付けることを目的として実施されている学校設定科目です。今年度から、討論力のスキルを伸ばすためにデイベートを取り入れて実施しています。研究発表等で質疑応答のスキルは欠かせないものとなってきています。この講座を機会に、自分の考えを根拠に基づき論理的に主張すること、人の意見を聞き自分の意見との違いを認め、相手の考えや思いを理解すること、そして、一歩踏み込んでその意見の違いをどう解決していくか、そこまで考えられることができるようになっていければと思っています。最後は英語でデイベートに挑戦します。

✚ デイベートの基礎について学ぶ

◎デイベートとは？

与えられたテーマの是非について、話し手（ディベーターと呼ぶ）が肯定側・否定側に分かれ、決められた持ち時間・順番の中で、第三者（ジャッジ）を説得する形で議論を行います。スポーツやゲーム等と同様にきちんとしたルールがあり、勝ち負けがあります。勝ち負けの基準は、ジャッジをどちらがより「説得」できたかにあり、相手やジャッジを論破・圧倒・翻弄することではありません。

デイベートは、一般的に立論／尋問／反駁で構成されます。立論は自説を論理づけて説明し、これから行うデイベートの論点と論拠を明確にするパートです。尋問は相手の立論に対する質疑応答のパート。反駁とは立論の中で出てきた論点にそって、議論を深めるパートです。

第1回はグループ毎に与えられたテーマに従ってデイベートを行いました。メンバーで協力し合って下調べをし、作戦を練り、予想される質問に対する答えを想定するなど念入りに準備して本番に挑んでいました。会場はなかなかの盛り上がりで、生徒達は勝ち負けにこだわらずデイベートを楽しんでいた様子でした。調査不足で反駁が不十分だった、相手の論拠が納得いかなかった、などいろいろな反省もあったようですが、次回に活かしてまた頑張ってください。



事前準備を念入りに



相手側の立論中はしっかりメモをとります



第1回デイベート

生徒による相互評価

獲得ポイント上位者

（論理的思考力・表現力・討論力）

1位 小畑 朋大

水口 佑太

3位 杉岡 祐依

✦ 「かけがえのない命」

「かけがえのない命」をテーマに、佐原病院院長の佐原先生と公立能登総合病院の助産師平田先生から講義をしていただきました。佐原先生からは「死とは何か?」という側面から、また、平田先生からは「生まれてくる命」という切り口でそれぞれの立場から経験談を交えてお話をいただきました。講義を聞いたあと、「尊厳死法案の法制化」についてディベート演習を行いました。先生方の講演や図書館・インターネットなどで調べたことをもとに、賛成・反対それぞれの立場からグループで意見をまとめ、演習に臨みました。とても重いテーマでしたが、講演で聞いた話だけでなく、自分たちでたくさん調査し、勉強して取り組んでいて、中にはなるほどと頷ける意見もあり、非常に白熱した議論が交わされていました。



佐原先生の講義



平田先生の講義



ディベートの様子



✦ 「コミュニケーション能力」 金沢工業大学 青木先生

金沢工業大学教授の青木先生をお招きして、「コミュニケーション能力を身に付けるために」をテーマに講演を行っていただきました。コミュニケーションの基本的な構造について、論理的であるとはどういうことか、コミュニケーションがとれないとはどういう状態なのか、また、コミュニケーションセンスを身に付けるコツは何か、コミュニケーション能力のトレーニング例などについて大いに語っていただきました。最後にまとめとして Prioritization (優先順位付け) の演習を行いました。難しい問題でしたが、個人で考えた場合とグループで考えた場合の優先順位が違ってきたのがとても興味深かったです。

最後に先生が強調されていたのは、『コミュニケーション能力とは、単に話すのがうまい、といったものではなくもっと総合的なものである。自分と相手が意志・感情・思考を共有化することであり、自分と相手がお互いにいい関係にあり、相互に理解できている状態をコミュニケーションがとれている状態であり、単に情報を論理的に伝達するのではなく、そこに共感があるのがポイントである。それには相手との良好な関わり合い、相手の身になって考えることのできる対応が必要になってくる。』ということでした。今後のディベートにも参考になる大変面白い講座で、生徒達は最後まで関心を持って熱心に聞き入っていました。

金工大 青木先生



○演習問題 ©2012 Koji Mitani All rights reserved

あなたが乗っていた飛行機がケベック州山岳地帯に墜落、何人かの乗客と救命ボートで湖に浮かんでいる。季節は冬で積雪あり、岸までは楽に着けそうだが、助けを期待できる場所までは 35km 離れていて道が無く交通手段は飛行機が電車。救援の連絡は取れていない。全員現金と地図とナイフを持っていて、冬の服装着用だが濡れている。飛行機が沈んでしまう 10 分の間に、優先順位を付け右の物品をできるだけ持ち出したい。あなたならどうする？

物品	優先順位
コンパス	14
はちみつの缶	4
寝袋 (全員の分)	1
浄水錠剤	13
テント用の布	3
耐水強力マッチ	2
ナイロン縄	6
懐中電灯	9
酒 (75度)	7
ひげ剃りと鏡	10
目覚まし時計	12
中型の斧	5
タイヤインナーチューブ	8
本「北極星との飛行」	11

※地元レンジャー部隊の答 →